

## 看護学概論授業評価 BRD(Brief Report of Day)方式による2年間の比較

新潟医療福祉大学 看護学科 本間 千代子

### 【目的】

看護大学1年生の看護学概論の授業に宇田光氏の提案するBRD方式を2年間実践した比較より授業効果を見ることである。

### 【方法】

1. 看護学概論授業概要：セメスター前期 90分×7回、テキストと資料の併用、学習大項目 1)看護専門職、看護の歴史 2)看護の概念、構成要素 3)人間と環境 4)健康と看護 5)看護の役割と業務 6)看護活動 7)保健医療福祉システムと看護。授業手順：当日のテーマを板書1つか2つ①学生はその日のテーマをテキストよりまとめレポートに書く②教員は資料を配布説明2テーマの時はこれを2回繰り返す③レポートの修正④レポート提出⑤前回レポートの受け取り。2. 対象：看護大学1年生88名。3. 日時・調査法：2008年5月22日、2009年5月21日集合調査法。4. 調査内容：当日レポート方式と普通の講義を比較する内容など宇田氏の質問項目に準じて作成12項目1はい2どちらともいえない3いいえの3件法、授業満足度、集中度は5件法、授業の感想は自由記述記載。5. 分析：単純集計、学習満足度、学習集中度はカイ二乗検定、自由記述はBerelson, B. の内容分析の技法を用いた。

### 【倫理的配慮】

学生には口頭で授業研究として調査したい旨を説明。質問紙は無記名であること、成績とは無関係であり内容は分解されるため個人情報の秘匿を説明した。質問紙にも可否の自由設問を設けた。

### 【結果】

回収数 2008年85名(98%)2009年84名(95%)

普通の講義と当日レポートのどちらが良いか、当日レポート 2008年(69%)2009年(56%)普通の講義 2008年(12%)2009年(30%)変わらない 2008年(19%)2009年(14%)。

質問12項目3件法1～3点で得点が高いもの3つは2008年2009年と同じ項目であった。説明時間が少なくわかりにくい。2008年(2.5点)2009年(2.3点)テストされているようにいや。2008年(2.5点)2009年(2.6点)大学の授業らしくない。2008年(2.8点)2009年(2.7点)であった。

BRD方式の授業満足度を、高い・非常に高い 2008年(51%)2009年(53%)と低い・どちらともいえない 2008年(48%)2009年(46%)、をカイ二乗検定すると2008年は自由度1、カイ二乗値6.617、1%水準で高い・非常に高いが有意であった。2009年も自由度1、カイ二乗値5.269、1%水準で有意であった。2008年授業集中度は自由度1、カイ二乗値5.254、1%水準で高い・非常に高いが有意であった。

2009年も自由度3、カイ二乗値2.163、0.5%水準で有意であった。

自由記述では2008年103、2009年100、の文章が記述されていた。授業で良いと思ったこと。2008年80(100%)2009年74(100%)で理解28(35%)15(20%)集中21(26%)11(16%)安心9(11%)3(4%)書く力7(9%)8(11%)私語がない1(1%)7(10%)が2年間同じ内容記述であった。

授業で改善を要すると思ったこと。2008年23(100%)2009年26(100%)で時間内に当日レポートを書くのが大変8(35%)3(11%)が2年間同じ内容記述であった。

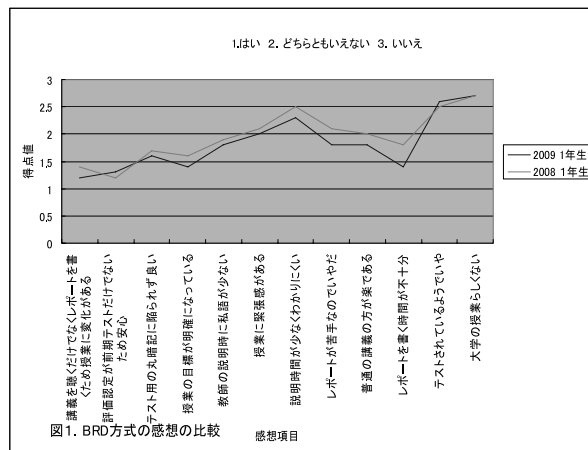


図1. BRD方式の感想の比較

感想項目

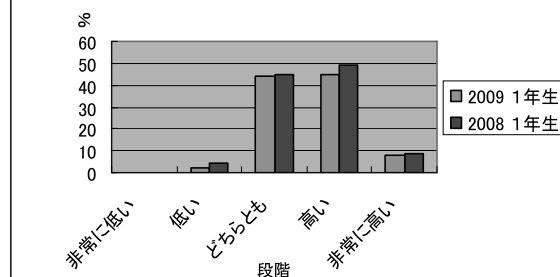


図2. BRD方式による授業満足度の比較

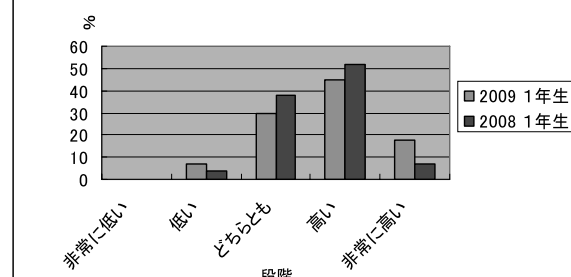


図3. BRD方式による授業集中度の比較

### 【結論】

BRD方式による看護学概論授業を2年間実施した学生調査の反応から効果を見た、結果学生は普通の講義より良いと考えており授業集中度、授業満足度で有意差が見られ有用な教授法であることが示唆された。

参考文献 宇田光著 大学講義の改革 BRD(当日レポート方式)の提案 北王路書房 2006